

令和 6 年 8 月 31 日

仙台総合ビジネス公務員専門学校

令和 6 年度学校関係者評価委員会 報告

学校法人菅原学園 仙台総合ビジネス公務員専門学校では、本校規定に基づき、令和 6 年度に、学校関係者評価委員会を開催いたしました。内容につきましては以下の通りご報告いたします。今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、各委員からのご意見やご指導を真摯に受け止め、教職員一同努力してまいります。

【令和 6 年度 学校関係者評価委員】

	芳 名	所 属 団 体	備 考
1	関口 秀之	菅原章博税理士事務所	経理ビジネス科
2	上田 佳子	株式会社うえだ	販売ビジネス科
3	佐藤 真弓	株式会社ハナサク	フラワー科

【学校教職員】

1	熊倉 正浩	経理ビジネス科 科長
2	佐藤 僚	フラワー科 科長
3	澤田 裕樹	販売ビジネス科 科長
4	佐藤 結衣	経理ビジネス科 教諭

令和5年度自己評価結果とご意見に対する対応

自己評価報告について説明をし、各委員からの意見をいただいた内容は以下の通りです。なお、【 】は自己評価報告の項目となります。

【教育理念・目標】

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「自己学習を持つ社会人」として必要な基本様式を身につけることを目標として心がけている。これからの社会ニーズに適した実践的な職業人の養成機関であることの認知度を上げる為にも、今まで以上に企業との連携を図り、社会のニーズを把握し社会で必要とされている最新技術等をカリキュラムに取り入れることで、教育の向上へ繋げる必要がある。また、学生保護者に対して、高校訪問、出張授業やオープンキャンパスのみならず、WebサイトやSNS等を利用して地道に学校の学習分野を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要であり、将来を見据え社会のニーズに合わせた学科編成等の提案も今後必要となる。令和5年度募集より学科変更、コース編成ではなく専攻にし社会のニーズに合わせた学科変更を実施済みではあるが、将来を見据えたうえで、時代の変化に合わせた新たな学科編成等の提案も今後引き続き必要となる。

【学校運営】

情報システム化等による業務の効率化を目的に、学籍管理や出席管理、学納金の入出金状況の確認を一括で管理が可能なシステムの導入を図る。学生向けにも、ペーパーレス及び効率化を図るため、学園ポータルサイトの準備を進め、求人票の閲覧、時間割、スケジュール、各種申請手続き等に対応を検討したい。

【教育活動】

授業評価に関して、学科による外部団体・企業に授業評価の依頼を検討する。また、学生に対して年2回（前期末、後期末）において、授業評価アンケートを実施しており、評価結果に基づいて学校運営や授業方法の見直しに活用していく。その他、学生自身による習熟度を評価する自己評価制度の導入も昨年に引き続き検討し実施していきたい。研修に関しては、先端的な研修、能力開発研修等の情報収集を積極的に収集し、積極的に参加を進めていく。新型コロナウイルス感染状況をふまえ、オンラインによる研修会が増えている中、学园内・外、研修会の実施や参加を積極的におこなっている。学生の多様性を尊重していくうえで、メンタルヘルス等の研修への参加も必要となる。

⇒学生だけでなく教員側も今後の指導の参考にもなるし、年2回だけでなくもいいのかなと思うが、変に学生の負担になっても良くないのかなと。各個人の習熟度を確認する自己評価制度は本当に良い取り組みだと思うので、ぜひ実施して欲しい。

【学習成果】

就職率・資格取得率は、クラス担任が中心となり個人面談等で個々の学生の状況を常に把握し、学生課、菅原学園キャリアサポートセンターと協力しながら学園全体でも向上に取り組んでいる。退学率低減のために、スクールカウンセラーとの個人面談を実施する。出席率や資格取得率の向上に関しては、非常勤講師も含めて、学生の情報を共有しながら現状分析を行い、サポート体制を整える。卒業生と定期的に連絡を取り、現場での状況を把握し意見を取り入れる。また実習先や就職先に対して企業訪問など実施し関係性を深め、学生への指導や改善に努め、教育活動の仕組みを構築する。

⇒各科の退学理由や、出席不良の学生の理由を確認したなかで、理由的に退学としようがない学生もいるとは思いますが、少し学習環境（別教室）を変えたりすることで卒業できる学生もいるのではないかと感じる学生がいる。他の学生と同様に単位を取得するうえで特別的な対応ができるわけでもないし、現場の先生の負担が増えるだけで現実的ではないが、卒業ということだけを考えた場合、せっかく入学してきたことを考えたら、卒業したということが本人にとって大きな成長や達成感として今後に活かされるのかなと感じることがありました。勝手なことを言いましたが、入学した以上なんとか頑張って進級、卒業をして欲しいというのが気持ちとして強いですし、その為に私も全力で協力していきます。

【学生支援】

少人数制の利点を活かして、学生の入学から卒業までの各種支援を担当が中心となり行っている。ただし、学生の多様化により担任業務の増大し、求められているスキルも増えている。担任だけではなく各部署との連携を強め、一人ひとりの課題（基礎学力不足、学習障害、経済状況等）を明確にして、対応できる支援体制の運用をしっかりと行う。カウンセラーや専門機関と連携しながら支援を行う。また、卒業生に対する支援組織をしっかりと運用することも大切である。

就職活動に際しての通信環境やPC環境に対して、IT委員会、キャリアサポートセンターと情報共有し、学生に有意な環境を設けたい。

なお、令和5年度にPC教室2教室のリニューアルが完了したことで、学生満足度が向上し、有効活用ができています。

⇒実際に教室を確認しましたが、とても環境の良い教室だと感じました。就職試験がWEBでの面接等が多いなかで、そういった環境があると良さそうですね。

【教育環境】

PC 設備に関して、6 階 P C 教室を最新 P C にリニューアルし、5 階 P C 教室も令和 5 年 10 月に最新 PC にリニューアルし、全 PC 教室が最新 PC リニューアル済。施設に関しては、建築後 20 年以上が経ち、東日本大震災も経験しているためしっかりした管理が必要である。令和 5 年度に大規模修繕工事が完了し、雨漏り等が改善された。

⇒環境整備も整い、学生にとっても学びやすい環境となったことで、学生募集に繋げることもできるのではないかと思います。

6 月にシェイクアウト訓練を実施済みだが、避難訓練を行い、連絡網や備蓄について再検討が必要である。学生用、教職員用防災マニュアルの策定や暴風警報発令、その他の災害に対する対応も検討する必要がある。

⇒今は地震だけでなく、雨による被害も多くでているなかで、学生だけでなく職員も含めて、そういう状況になった時の対応策を把握しておくことが必要だと感じます。その他、一人暮らししている学生が主にですが、学校にいない時の避難場所を把握しておくことも必要ですね。地震発生の際の学生の安否確認の基準とかも決めておくことで職員も判断しやすいと思います。震度 4 以上の場合は学生に安否確認の連絡を入れるなど。備蓄品等も必要ですね。

【学生の受入れ募集】

入学相談室を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動として、オープンキャンパス、個別相談会を行っている。その他、土、日、祝日に個別相談会を実施し、来校不要な Zoom による個別相談会、LINE による個別トークを実施。

広報活動として「Web サイト」「SNS」等を利用して、教育内容、成果を提供するために Web サイトのタイムリーな更新を行い、高校生に届く、より効果的な広報活動を考える必要がある。

学納金は、在学生への教育支援、教育施設のための費用として、収支のバランスを考えながら設定されている。しかし、入学生減により学納金支援策の縮小も考えられる。

【財務】

職業実践専門課程の一部として学園の HP 上で財政状況を公開している。

【法令等の遵守】

法令・設置基準の遵守と適正な運営を行っている。

自己評価結果はホームページ上で公開している。

【社会貢献・地域貢献】

令和 5 年 4 月、専門実践教育訓練の指定講座として、経理ビジネス科、フラワー科が認定を受けた。

⇒個人的に仙台市太白区を中心に活動している三栄会に所属しており、

4 月は桜まつり、9 月はとみざわマルシェを開催しているので、ぜひ学生ボランティアスタッフをお願いします。